

# Memento

## 教育実態調査報告書を読む

伊藤悦子

本年度末（2001年度末）には、移行措置を終えた同和対策事業が終焉する。そうした状況のなかで「残された課題」として指摘されているもののなかに、部落の子どもたちの「低学力問題」がある。

部落の子どもの学力格差は1970年代前半に本格化した高校進学率向上のための取組で一定の解消をみたが、その後20年にわたって、部落の高校進学率は全体と比べると数ポイントの格差があることが全国的に指摘されている（京都市の場合は、進学率に限ってみれば格差はない）。進学率格差はきわめて縮小されたが、その中味を決定している学力格差はあまり縮小していないどころか、むしろ拡大しているのではないかという議論もある。

そうした状況を踏まえて学力を形成する要因、もしくはは阻害している要因をさぐるための教育実態調査が、次に見るように1984年以降、90年代に各地で実施された。以下、この拙文はそれら報告書についての紹介と研究としての特徴を検討したものである。それぞれの報告書は量的にも膨大なものであり、結果について詳細に紹介はできないが、調査のあゆみという点での特徴を指摘してみた。

### 1. 1984年大阪調査

『被差別部落における教育機会に関する実証的研究 - 低学力問題を中心として -』（大阪大学人間科学部編、1986年3月）に大阪府Y市の調査が報告されている。

同書は日本における部落の子どもたちの実態調査とし

てはさきがけであり、大阪府Y市以外についても調査報告されているが、小規模部落のため量的調査にはなっていない。ここではY市の調査にのみ限定して検討したい。

調査は学力調査と生活実態調査からなり、学力と生活実態との関連を追及している。学力については、地区の子どもたちの正答率の低さが確認されている。そして、その学力と子どもの生活実態との関連を検討する際に「家庭生活スコア」を用いて分析している点が本調査報告書の特徴である。

「家庭生活スコア」とは、家庭生活の基盤、家族との心理的つながり、家庭学習の条件、自由時間の過ごし方などをたずね、生活の厳しさを個人毎に点数化したものである。「朝食の有無」や「帰宅時の大人の不在」など家庭生活に関わる様々な事項を調べ、それを点数化し、家庭生活の物的、人的条件が厳しい子がいる比率を地区・地区外で比べたり、そのようなスコアと学力がどのように関連しているかを調べたものである。

結果、地区には生活の厳しい子どもが多いこと、地区・地区外を問わず家庭生活の厳しいものほど正答率が低くなることが明らかになった。当然ながら、生活の厳しさが子どもの学習を左右しているのである。しかし、同じ家庭生活スコアの子も同士を比べると、地区の子どもの方が正答率が低いという事実も明らかになった。生活実態とともに、何らかの部落差別の影響が働いていると考えられる。たとえば、親の職業や学歴、学歴期待、学校と地域文化とのずれなどであるが、本報告書ではそう

した調査をしていないので、指摘はあっても推論の域を出ていない。

こうした調査を踏まえて、報告書は次のように指摘している。すなわち、生活実態の厳しさを明らかにすることはかつては特別措置の必要性を訴える根拠となったが、1984年の現在では逆に特別措置が効果を上げていないことを示すことになるという。そして、調査に表れた家庭生活のさまざまな項目のうち、たとえば、自学自習の習慣が地区の子どもたちの方に確立していないことなどを指摘したうえで、特別措置20年間の取組のなかでようやく自学自習を問題とする時期になったとし、親の学習の必要や組織化を提起しているのである。

1980年代前半までの学力調査は、子どもの学力と学校生活との関係を分析するものが大半であった。それに対して、学力の形成要因のうち家庭生活のありようが大きな割合を占めるという観点で調査実施され、予想通りの結果を得たわけである。「低学力」克服の筋道を行政・学校のみならず、部落の住民にも求めた最初の調査であった。その点で、それまでの調査の枠組みのみならず解決方法についても方向転換しており、ターニングポイントとなる調査である。

## 2. 福岡県調査（1990年実施）<sup>注1</sup>

全県的調査という点では画期的な調査である。調査規模も小学校5年生、中学校2年生合計約3,600名（内、同和地区児童生徒700名）を対象にした大規模な調査であった。

学習状況調査と生活状況調査からなり、生活状況調査では家庭・地域・学校生活での実態や意識を調査している。

本調査の特徴は既存の調査がもっぱらクロス分析を用いてそれぞれの要素と学業成績との関連を明らかにしてきたのに対して、数量化第 Ⅱ 類という手法を用いて、多様な要因のなかで何が強く影響しているかを数値化してみるなど、要因の強弱を総合的に分析することを目指したことにある。また、調査分野として「基本的な生活習慣」「セルフイメージ（自己概念）」

「将来への見通し」に重点を置いて設定し、学習と生活実態との関連のみならず、学習と「セルフイメージ」との関連をも分析した点が特徴的である。また、こうした調査報告書の場合、調査の統計的考察で終わることが多いのに対して、考察と具体的提言が最後に付されているのも特徴的である。

この提言部分に着目して若干紹介すると、まず冒頭に「子どもたちの学力を高めるためには、子どものセルフイメージ形成をあらゆる教育の場で総合的に高めなければならない」とし、学力の充実や向上をめざす取組のなかで、学習成績に結びつきやすいことのみを問題にするのではなく、子どもの個性を尊重しそれを保障する取組の必要も提言しているのである。それとの関連で、学校・教師には「楽しい学校づくり」が求められている。その上で、家庭・地域の環境で地区の子どもたちにはいまだ多くの課題があることも指摘し、教育行政・学校との連携を提起している。この部分は総論的であるが、教育行政が学力保障の問題を子ども自身や家庭に責任転嫁してはならないことを再確認しているわけである。ただし、具体的なことは述べられていない。

この調査は、一つ一つの調査項目を検討し、各地区において実践課題を明らかにすることが本来的な読み方であろう。ただ、上に述べたように、学力向上を求める実践がともすれば子どものセルフイメージに対してマイナスに作用し、ひいては学力形成を阻害しているという調査結果がでたこと、セルフイメージに着目した大規模調査であったという特徴を確認しておきたい。

## 3. 宝塚市調査（1994年実施）<sup>注2</sup>

調査対象は小学校2、5、6年生、中学校1、2年生の児童生徒3,897人で、内容は生活実態調査、学習理解度調査、保護者調査及び解放学級の調査である。

調査は、生活実態がストレートに子どもの学習理解度に影響を及ぼすだけでなく、自己概念を媒介として学習理解が進むし、また学習理解は自己概念をプラスにすると考えて分析している点が特徴である。分析は

学習理解度の地区内外の比較、生活実態の比較、学習理解度と生活実態との関連、自己概念と生活実態との関連（ここが本報告書の特徴）、保護者の生活意識、学習理解度と保護者の意識、学習理解度と解放学級出席の関連（この結果は興味深いのみならず深刻である）、総括として学習理解度の規定要因の相互の関連も統計的に提示されている。

単純集計からクロス集計、自己概念の因子分析等、様々な方法による分析がなされている。この調査は今回紹介していない「算面調査」を実施した大阪教育大学グループによるものであり、自己概念を学力向上のキ・ポイントにしていることなど、調査規模や分析手法について貴重な報告書といえる。この調査の枠組みは後に他の調査においても使用されており、私が関わった京都府井手町の調査も元を正せばこの調査の枠組みに基づいて実行したものである。

また、本調査では保護者の経済的状況や教育歴も尋ねている点が先の大阪府Y市調査や福岡県調査と異なっているが、ただ地区外との比較調査はできていない（保護者調査について比較できるのは、1994年実施の三重県調査<sup>注3</sup>である）。

結果として、学習理解度に関しては地区と地区外に明らかな格差があること、国語については小学校2年生から、算数・数学については小学校5年生から、英語については中学校1年生から格差が認められている。

生活実態については、地区と地区外との単純な比較を行い、さまざまな点で地区の特徴が指摘されている。そうした生活実態と学習理解度をクロス集計している。基本的な生活習慣と理解度との関連は地区内外とも同じ傾向で、生活習慣が確立されるほど学習理解度は高くなり、「絵本を読んでもらったか」では「よく読んでもらった」ものほど学習理解度の高いものが多いなど、他の調査と同じ点が指摘されている。

本報告書で特徴的な学習理解度と自己概念との関連は、全体として両者は無視できないほどに関連していたと報告されている。自己概念は、自尊感情（自分を肯定し、尊重する感情）・環境統制感（自己を取り巻く環境を自分が変えることができると思う感覚）・社

会観を下位の概念として持つもので、これらと学習理解度との関連を因子分析し、学習理解度と関連の深い因子を採求したものである。結果、「効力感」と名付けることのできる因子が抽出されてきた。すなわち、自信を持ち、努力すれば良い結果が得られると感じている子どもが学力が高くなるという結果である。

また、解放学級への出席率と学習理解度については、出席率0の子どもが最も学習理解度が高く、次に積極的参加者、そして消極的参加者が最も学習理解度が低いという結果が得られた。

こうした集計を踏まえて、学習理解度の規定要因をパス解析で明らかにした結果、部落の子どもの場合、自己概念のうち「効力感」と「疎外感」が学習理解度と強く関連しており、次に「解放学級への参加度」が強く関連していた。また、保護者の「期待学歴」がプラスに効果をもたらし、「父の暮らし向き」「保護者の学歴」も関連していることが明らかになった。

社会調査のさまざまな方法を用いた報告書であるが、福岡県のような具体的提言は付記されていない。調査報告書で明らかになった結果を実践の立場で考察し、どのような具体策を打ち出すかは今後の課題となっている。

#### 4. 1990年代以降の調査

以上、紹介した3つの調査以外にも1990年代後半に各地で教育調査が行われ、報告書が出されている。それらの調査の枠組みは家庭教育に焦点をあてて調査するという点で紹介したこれらの調査と同じであるが、問題意識の重点が階層格差と部落問題との峻別に向かっているように思われる。

実際、階層と教育達成の問題は現代日本において再び脚光を浴びており、教育社会学の重要な研究課題になっている。1960年代以降「貧困」と教育達成の関連についての研究がなくなり、「貧困」の問題自体が社会問題からはずれていくが、実は社会の底流に流れ続けていた問題であった。そうした点を指摘した苅谷剛彦著『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）をはじめとして、階層と教育達成との関連についての

研究が進展しつつある。それに呼応するように、階層と部落、階層格差と教育達成、階層以外の部落固有の教育課題を探る研究が排出している。

いずれにせよ、これらの研究に共通することは教育達成の格差（あるいは学力格差）が完全になくなることは不可能であっても、拡大することは社会的に問題であるという問題意識である。無責任なエリートと希望をなくした貧困者に二極分解していく社会、それは社会を維持するという「保守的な」発想から見ても危機的であり、日本の現実がその方向に向かいつつあると考えている研究者は多い。部落だけに限ってみれば、じつは再貧困化は生活実態調査で確認され始めており、その点だけから考えても学力問題に明るい展望はあまりない。

どういう調査をすれば現実を分析できるのか、そしてその成果をいかした教育的取組はどうあるべきかなど、教育の一端に関わるものとして暗中模索である。90年代後半以降の教育調査についても興味深いものが

散見される。それらの紹介はまた後日に譲りたい。

なお、これら実態報告書は巷に公表されていない資料がほとんどである。興味を持たれた方はセンターに連絡してもらいたい。また、学力問題に関しては解放出版社から出されている『これからの解放教育 - 学力保障とカリキュラム創造』（部落解放研究所編，1993年）や『地域の教育改革と学力保障』（部落解放研究所編，1996年）などが入手しやすいので、参照していただければと思う。（いとう えつこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員）

注1 『同和教育実態調査報告書』（福岡県教育委員会，同和教育実態調査実行委員会編，1992.3）

注2 『宝塚市同和教育にかかる教育総合調査報告書』（宝塚市同和教育にかかる教育総合調査研究委員会刊，1995.3）

注3 『三重県学力・生活状況調査報告書』（三重県教育委員会刊，[1995]）

## 『京都の部落史』史料を読む 第1回

# 辻芝居について

中島 智枝子

はじめに

大映の京都撮影所長であった鈴木晰也氏が『朝日新聞』に「輝きは遠く 回想・大映京都撮影所」と題する回想記を掲載されている。2001年9月17日付の「奇人変人（下）」では戦後を代表する映画監督、溝口健二、伊藤大輔、衣笠貞之助三人についてエピソードが語られ、それぞれの監督の特徴がうかがえてとても面白かった。衣笠貞之助監督について「作風も人物も女性的でした。小芝居の女形出身だから、脚本読みはいつも声色を使った『仕方話』。これがおもしろいのなんの。」とあった。自らが役者として演じて指示するというのだから芝居役者魂消えずということだろうか。

ここで語られている小芝居であるが、『広辞苑』に

よれば規模の小さい芝居とあり、<sup>どんちょう</sup>緞帳芝居とも言われるとある。緞帳芝居を『広辞苑』でこれまた引けば、「（引幕を許されず、垂幕を用いたからいう）下等な芝居小屋。小芝居小屋。」ということである。緞帳役者という語もあり、これは緞帳芝居に出る役者、下等な役者とある。これらの説明から芝居にも役者にも格があったことがわかる。衣笠監督が小芝居の女形役者であった頃、どうだったのか今はおいておくこととして、数ある芝居の中の一つ、辻芝居または門芝居について見てみたい。

近世の芸能者・大道芸人

『京都の部落史』史料編[第3巻～第5巻]では芸能について多くの史料が挙げられているし、江戸時代の芸

能については第1巻通史編に詳しく書かれている。歌舞伎役者を「河原者」といって賤視してきたのはよく知られているところであるが、近世社会における芸能者たちを取り巻く状況について、「芸能者への賤視」という項で次の様に書かれている。「近世にはいって能役者・能狂言師は職種全体の社会的地位が上昇しており、芝居関係でも舞太夫・浄瑠璃太夫・歌舞伎役者の上層にあるものにたいしては賤視は弱まり、地位の向上がみられた。しかし、だからといって一般的に芸能者にたいする『河原者』としての卑賤感<sup>ひけんかん</sup>は払拭されることはなかった。」[第1巻 340ページ]ということである。

役者の地位が向上したとはいえ、天保の改革では役者への取締りは厳しく、京都でも「元来役者共八至ていやしきもの二而、百姓・町人と八身分之差別これあるもの二候」とされ、芝居役者は「芝居これある町内限りに住居」することおよび他行の禁止を命じられた文書(1842年 天保13)が「三条衣棚町文書」に残っている[第5巻 494ページ]。

芝居小屋で演じる役者たちですらこのような処遇を受ける中で、門付け芸人や大道芸人たちは一体どうだったのだろうか。『京都の部落史』では「非人芸と小屋頭」という項の中で次のように記されている。京都では幕藩体制が整備される中で非人身分の統制がはかられ、四座雑色支配下に悲田院がおかれ、洛中洛外約70の非人小屋が悲田院の下に統括された。非人小屋は小屋を所有している小屋頭が差配し、門付け芸などの雑芸者や厄払いは小屋に間借りの形で居住していたということだ[第1巻 343~344ページ]。

非人身分が演じていた芸であるが様々なものが見られる。「家々の門口に立って祝言を述べたり、種々の芸能を演じたりする門付け芸」には万歳楽、春駒、鳥刺、鳥追、猿舞、大黒舞等がある。「街頭や路上で芸を演じ、観衆の投げ銭を収入とする大道芸」には辻放下、辻狂言、辻講釈、辻談義、辻読み、辻ばなし、薬売り、居合い抜、辻占、辻琵琶、辻能そして辻芝居等が見られる。バラエティーに富む芸能が路上で行われていたといえる。照明付きというわけでないからこれらの芸

が行われるのは昼間のことである。人々が足を止めそれらを見て楽しみ、「お代は見てのお楽しみ」ということだったのだろう。わずかばかりの見物料が芸人にもたらされた。大道芸を楽しんだ時代は時間もゆっくりと流れていたといえる。車社会、テレビ時代の現代では考えられない光景である。

### 辻芝居(門芝居)について

江戸時代に都大路を賑わした大道芸であるが、その中の一つ、辻芝居とは一体どのようなものだったのだろうか。辻芝居については中島棕陰(1779年~1856年)の『都繁昌記』(1837年 天保8)では次の様に描かれている。「芝居、芝居」と拍子木を鳴らすと人々が集まって来る中、名優の扮装をした「戯乞」つまり辻芝居を演ずる芸人が1人か2人あるいは5、6人連れで、なる丈多くの銭を得るために金持ちの家の門前で芝居を演じたと記されている。棕陰の幼少の頃から見られ、乞食十蔵、三五郎が有名であった。その頃は芝居の真似事のようなものであったが、文化、文政の頃(1804年~1830年)には「大劇場の名優を学び、動作言説、撃拍舞踏、式に沿い、節に中り、妙、人の意を感じるに足る」までになっている。金蔵、政吉、虎吉というような人気者も生まれ、彼らの稼ぎは一日10貫銭を下らない。ところが、これら全てが彼らの元に行くわけではなく、小屋頭に衣装のレンタル代をはじめ借金の利息等を払うと僅かばかりの銭しか手元に残らず、彼らの境遇は「嗚呼憐れむべき哉」に棕陰には映っている。天保の頃(1830年~1844年)には、裕福な町々では辻芝居を禁止するようになり、「冷巷貧街」でしか行うことが出来なくなり、稼ぎもわずかばかりになっていると記されている[第5巻 488~490ページ]。

中島棕陰の他にも、辻芝居については1810年(文化7)大坂に生まれ1840年(天保11)に江戸に移住した喜田川守貞が著した『守貞謾稿』(1853年 嘉永6)でも「乞食芝居」として紹介されており、それによると天保の改革で禁止され、嘉永年間(1848年~1854年)、京都・大坂で禁止され、1853年(嘉永6)、乞食芝居の役者数人が江戸に来はじめ、その後一日に36人が来た

事を聞いている。「当時、五、七人門前に来らざることこれなし」状態であるが、近日中に江戸でも禁止になるだろうと述べている[第5巻 497ページ]。

『守貞謾稿』によると、嘉永年間に京都では禁止されたとある。ところが、次に見る「柳原町史」によると次の安政年間（1854年～1860年）には盛んに行われるようになったとある。黒船来航以来、幕府の統制が緩み混沌とする政情の中で再び京都で行われるようになったのだろう。芸人たちにとっては辻芝居は生活の糧を得る手段であり、小屋を必要とせず、1人、2人でも出来る芸能であるだけに再開も容易に行われたものと考えられる。

### 近代を迎えた辻芝居

幕末に入り、再び盛んに行われるようになった辻芝居であるが、明治維新以降どのように推移したのだろうか。

京都府が、1887年（明治20）に行った町村沿革調査に基づき柳原町についてまとめた「柳原町史」の中に、六条村の東の鴨川原にあった「水車」と通称された非人小屋の七条裏について次のように記載されている[第5巻 498ページ]。

#### 七条裏

一、非人小屋ナレハ職業ナシ。袖乞等ニテ棲息ス。

（頭注）

「錢差又ハ藁草履ヲ作り、辻芝居及ヒ物語、其他遊戯ヲ以生活ス。其盛ナルハ、安政以後、明治六、七年ニ至ル。相打ち停止ノ後ハ頓ニ衰微セリ。」

これによると、明治10年代の七条裏の住民達の生活であるがこれといった職業もなく、物乞いで生計をたてているとある。そして、頭注では錢差や藁草履など藁細工を行うかたわら辻芝居や辻語り等の大道芸に従事していたことが記されている。これらの大道芸が盛んに行われたのは安政以降から明治6、7年（1854年～1873、4年）の頃のこと、停止されて以来にわかに衰微したということである。

辻芝居に大きな変化をもたらしたのは、1871年（明

治4）8月に出された解放令である。京都府では解放令を受けて翌9月に天部村および悲田院に対して解放令を告げるとともに新たな条規を定め布示している。身分に伴う一切の公役の廃止とともに、「一、辻芸・門芝居、向後禁止の事」とした[第6巻 48～50ページ]。

身分の廃止はとりもなおさずこれまで身分に応じて認められていた様々な権益の解消につながるものとなった。彼らの生活基盤がこれによって崩され、彼らを賤視する眼差しに満ちた世界に丸裸で投げ出されたのである。

エタ・非人等の身分の廃止とともに出された大道芸の禁止はこれらが生活の糧であっただけに芸人にとって大きな打撃を与えることとなった。辻芝居をはじめとする大道芸人たちは修業で積み重ねてきた芸の道を断ち、新しい仕事に活路を見出そうとしたのだろうか。元手は身についた芸である。一番手っ取り早く生活の糧を得ることが出来る仕事である。辻芸や門芝居を禁止されたとしてもやはり、それに頼らざるを得なかったと思われる。

辻芝居とはいえ錢を稼ぐためには人々を楽しませなければならぬ。そのため、「巧みに専ら大劇場の名優を学び」、芸の修業を積み、「名優の創意匠を写し」とあるように工夫を凝らしている。一錢でも多くの錢を稼ぐことにつながるというだけではなく、ひのき舞台は辻々であっても観衆から拍手喝采を浴び役者冥利を感じた芸人もいたことであろう。衣笠貞之助監督ではないが、一度芸の魅力に取り付かれた人々にとってはそうすんなりと芸能の世界から遠ざかるということとはなかったと考えられる。さらに、解放令によりエタ・非人身分が廃止となったことにより旧身分にとらわれることなく芸能者として生きる道を模索することが出来る機会も生まれたといえる。

こう考えると近代の到来とともに非人身分が行って来た芸が消滅したと考えるのではなく、近代の進展に伴い彼らが脈々と営んできた芸能の中から新しい大衆芸能が生み出されることになったといえるのではないだろうか。（なかじま ちえこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員）

## 本の紹介

## 横井清 『中世日本文化史論考』によせて

## - 中世民衆精神史の歩み -

灘本昌久

最近の部落問題をめぐる議論を特徴づけるものは、「ケガレ」への関心の高さだろう。これは、部落解放同盟が1997年5月に開いた第54回大会において、従来の階級闘争理論に基づく綱領を改め、「人権」「共生」などを柱とする新綱領に改定したことと連動している。従来の、「部落差別＝支配の道具論」の枠から脱して、もっと民衆の精神のありように関心を向けていこうというわけである。

しかし、「ケガレ」の問題が運動の理論として認知されたのは、ごく最近のことに属するのだが、一部の部落史研究者の中でははるか昔からいわれてきたことである。その代表的論者というべき人が、ここで紹介する『中世日本文化史論考』（平凡社、2001年6月）の著者でもある横井清氏であることに異論をさしはさむ人は少ないだろう。

『中世日本文化史論考』の紹介にはいるまえに、まず簡単に氏の研究をふりかえって、読者の学習・研究の参考に供したい。横井氏の主な単著を時代順に挙げれば、次のようになる。

『中世民衆の生活文化』（東京大学出版会、1975年）

『東山文化』（教育社、1979年）

『かんもんぎょき看聞御記』（そしえて、1979年）

『下剋上の文化』（東京大学出版会、1980年）

『現代に生きる中世』（西田書店、1981年）

『まとえな的と胞衣』（平凡社、1988年）

『光あるうちに』（阿吽社、1990年）

『花橘をうゑてこそ』（三省堂、1993年）

『中世日本文化史論考』（平凡社、2001年）

『中世民衆の生活文化』に収録された「中世における卑賤観の展開とその条件」（初出1962年）では、横井氏は上 下（支配被支配）関係において理解され

がちな賤視の問題を、中世における村落共同体の成立とそこからの特定の人の排除、そしてそれをささえる不浄観（ケガレ）、癩者への忌避感まで射程に入れて論じている。また、「中世の<sup>しよくえ</sup>触穢思想 民衆史からみた」（初出1968年）では、今でこそ知られるようになった「触穢」の思想を、部落差別の根幹をなすものとして明解に描き出している。細川涼一氏が『部落史用語辞典』で「歴史学が触穢思想の問題をはじめ正面からとり上げた」論考であると評価するのもうなずけるところである。師岡佑行氏が『戦後部落解放論争史』第2巻で明らかにしているように、林屋辰三郎氏によって切り開かれ、のちに横井氏によって継承されたこうした中世の部落史研究は、政治的に葬り去られるのであるが、今を去る40年も以前に、中世民衆の心的世界が、現在流行のケガレ論をはるかに凌駕する深みにおいて解明されていたことには、ただただ脱帽するしかない。後方を走っていた第二、第三集団が、今やっと、実は自分たちのはるか前方に第一走者である横井氏がいたことに気づきだしているというのが、昨今の状況である。

この他、<sup>それがし</sup>には散所の長者たる「山椒太夫」、山水河原者善阿弥の孫、又四郎の独白「<sup>それがし</sup>某 一心屠家に生まれしを悲しみとす。…」、婆娑羅、洛中洛外図に見る賤民の生活、身体障害など、現在の差別研究につながる様々なテーマが綺羅星のごとく並んでいる。

部落史研究に直接関わっては、1988年度の毎日出版文化賞にも輝いた『<sup>それがし</sup>的と胞衣 中世人の生と死』が重要である。従来、河原者と斃牛馬処理の関係は当然のごとく語られてきているが、ここでは「胞衣納め」すなわち、お産の時に出る胎盤などの処理に、河原者がかかわっている問題をとりあげ、しかも埋めたあとに松を一本植えるという行為の問題を考える。明示的にはしめされていないが、あの世とこの世という境界

をはさんでの命のやりとりにかかわる行為として指摘されているように読める。

ついで、『光あるうちに』は、その副題「中世文化と部落問題を追って」でもわかるように、氏による部落問題への直接的論及である。詳しくは、この本自体を読んでいただきたいが、たとえば杉田玄白の『蘭学事始』には、日本最初の人体解剖の場面が出てくるが、この時実際に解剖していたのは刑場で働く「穢多の虎松」の祖父である90歳になる「老屠」であるということが指摘されている。この史実は、最近の部落史研究では常識になってきているが、横井氏の指摘による普及が大きく貢献しているものと思う。

にみられる部落問題への直接的な言及もさることながら、氏の歴史研究全体に貫かれている、中世被差別民へのこだわり・関心にはただならぬものを感じさせる。『花橋をうゑてこそ 京・隠喩息づく都』などは、タイトルからすると一見なんの変哲もない京都と花の物語と思いきや、締めくくりに丹生谷哲一氏の文を引きつつ「中世『王権』の理解には『正月に千秋万歳を唱え、重陽に菊を献じてきた中世河原者・散所者の世界のあった』現実には軽視しえない」と結んでいる。この他、石川恒太郎著『日本浪人史』（西田書店、1980年）に寄せた短い解説にでさえ、中世被差別民は登場する。氏のこだわりの深さが知れようというものである。

ところで、横井氏の歴史学の方法は独特のものであり、論を立てたり、体系化を急ぐというよりは、中世民衆の精神世界を「耕す」といった風情がある。また、時として崖っぷちへ連れて行かれて、真っ暗な闇をのぞかされるような時もある。しかし、世の中には闇の深さにたじろがされるよりも、崖の高さを計測し報告

してほしい人もいようである。そういう研究者には、氏の作品は「感性的問題提起のオムニバス」（『史学雑誌』86編5号、96ページ）としかうつらないのかもしれない。

しかし今回上梓された『中世日本文化史論考』を読むと、横井氏の問題提起が決して大雑把な印象批評を繰り返しているわけではなく、厳密な史料の解読に裏付けられた議論の産物であることがわかるだろう。

たとえば、『興福寺年代記』に出てくる「外嶋」という表記は「小嶋」の誤記・誤認であると多くの専門家によって安易に断定・通説化されていたものが、横井氏の手にかかると、完全な史料の読み違いであることがあぶり出され、このことは『太平記』の作者が「小嶋法師」であるとする推定に大きな疑問符をつけることになって今にいたっている。そして、それにとどまらず、『洞院公定日記』の応安7年（1372）5月3日の条についての解釈では、洞院公定が親しくしていた小嶋法師の死去の知らせをもたらしたのが、通説という見貞侍者の使僧ではなく、庭の工事で出入りしていた散所法師ではなかったかとする横井氏の論証を読んでいると、日記の行間の息づかいまで汲みとって史料を解読するその眼力にただ舌を巻くしかないのである。詳しい論証の手続きは同書を紐解かれたいが、読者は、数百年前に書かれたわずか数行の日記からも、これだけのことが見出し得ることに感動するだろう。

本書あとがきによれば、氏は来春、京都を離れて岡山へ移り住まれる由であるが、今後も中世民衆精神史の旅を続けられることを、一読者として切に願う。また末筆ながら、京都部落史研究所時代からのご厚情にたいして、この場を借りてお礼を申し上げる。

（なだもと まさひさ / 京都部落問題研究資料センター所長）

## 収 集 図 書 (2001年7月～9月受入)

### 総記 - 博物館

吹田市立博物館館報 1 (吹田市立博物館刊, 2001.3)  
柳原銀行記念資料館特別展[解説資料] 第1回～第9回 (京都市刊, 1997.11～2001.8)《合本》

柳原銀行記念資料館常設展[解説資料] (京都市刊, 2001.9)

### 部落問題 - 総記

大阪人権博物館年報 No.10 2000年度 (大阪人権博物

館刊, 2001.7)

解放社会学研究 12 (日本解放社会学会編刊, 1998.12) : 2,500円《ミニ特集「障害と文化」》

解放社会学研究 13 (日本解放社会学会編刊, 1999.3) : 1,750円《ミニ特集「ゲイ・スタディーズ」》

解放社会学研究 14 (日本解放社会学会編刊, 2000.3) : 2,000円《ミニ特集「ポストコロナルとの対話」》

解放社会学研究 15 (日本解放社会学会編刊, 2001.3) : 2,000円《ミニ特集「寄せ場/野宿者研究の現在的課題」》

人権講座講演録 2000年度 人権ゆかりの地をたずねて (世界人権問題研究センター編刊, 2001.6) 《上田正昭, 安藤仁介, 薬師寺公夫, 仲尾宏, 秋定嘉和, 田端泰子, 中井伊都子, 川嶋将生, 福田雅子講演》

人権の世紀のために 歴史・教育・啓発・運動、そして自分史 (川向秀武著, 福岡県部落解放・人権研究所刊, 2000.5) : 1,050円

世界人権問題研究センター年報 2000年度 (世界人権問題研究センター編刊, 2001.6)

部落解放研究京都市集会報告書 第30回 (部落解放研究京都市集会実行委員会事務局刊, [2001])

部落問題研究所50年の歩み (部落問題研究所編刊, 1998.10) : 8,400円《「部落」(1号~600号), 「部落問題研究」(1輯~140輯)総目次》

第18回部落問題全国交流会 [資料] 人間と差別をめぐって ( [部落問題全国交流会事務局] 刊, 2001.9)

ふれあいリパティ 第6号 (リパティおおさかガイドボランティアの会刊, 2001.7)

文教ニュース 5 人権教育特集 (佐賀大学文化教育学部人権教育推進委員会刊, 2000.3)

文教ニュース 8 人権教育特集 (佐賀大学文化教育学部人権教育推進委員会刊, 2001.3)

#### 部落問題 - 生活・伝記

朝田善之助全記録 47 (朝田教育財団刊, 2001.7) : 1,000円

部落の21家族 ライフヒストリーからみる生活の変化と課題 (部落解放・人権研究所編刊, 2001.5) : 6,500円

#### 部落問題 - 歴史

奈良の被差別民衆史 (奈良県立同和問題関係史料センター編, 奈良県教育委員会刊, 2001.3) 《史料からその時代に生きた人々の心情を読み取り、大和の地に織りなされた歴史を能うかがり当時のままに再現する》

日本中世の身分と社会 (丹生谷哲一著, 塙書房刊, 199

3.2) : 12,600円

部落の歴史像 東日本から起源と社会的性格を探る (藤沢靖介著, 解放出版社刊, 2001.7) 《錯綜する学説を整理し、確実な史料から部落史を再構築する》

#### 部落問題 - 同和行政・実態調査

人権尊重のまちづくりをめざして 平成6年度市民の同和問題意識調査結果 (岐阜市同和教育・啓発推進専門委員会編, 岐阜市教育委員会刊, 1995.3)

第5回全国隣保館だよりコンテスト入賞作品集 2000年度 (全国隣保館連絡協議会刊, 2001)

同和問題の解決に向けた実態等調査委員会委員分析報告書・生活実態調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

同和問題の解決に向けた実態等調査委員会委員分析報告書・同和地区内意識調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

同和問題の解決に向けた実態等調査委員会委員分析報告書・府民意識調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

同和問題の解決に向けた実態等調査報告書・同和地区内意識調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

同和問題の解決に向けた実態等調査報告書・生活実態調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

同和問題の解決に向けた実態等調査報告書・府民意識調査 (大阪府企画調整部人権室刊, 2001.3)

「共に生きる」まちづくりをめざして 人権についての市民の意識調査結果 (岐阜市刊, 2000.1)

2000年部落問題実態調査分析プロジェクト報告書 (部落解放同盟大阪府連合会刊, 2001.7)

#### 部落問題 - 解放運動

部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会大会議案書 第17回 (部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊, 2001.8)

部落解放第31回京都府女性集会討議資料 (部落解放同盟京都府連合会女性部執行委員会編, 部落解放同盟京都府連合会刊, 2001.8)

部落解放同盟第58回全国大会報告集 (解放新聞社刊, [2001]) 《解放新聞号外》

#### 部落問題 - 教育

子どもたちの表現を拓く 書くことの可能性と授業 (福岡部落史研究会編, 福岡県部落解放・人権研究所準備室刊, 1999.10) : 1,050円

それぞれの行動計画と新しい「同和」教育 人権教育のための国連10年（福岡部落史研究会編，福岡県部落解放・人権研究所準備室刊，1999.5）：1,050円

はじめのだい いっぽ 人権教育のための教材資料集（茨木市教育委員会編刊，2000.3）

私たちが創る部落史学習 差別解消の主体者を育てるために（香川県部落史をどう教える会刊，2001.7）：1,200円

#### 部落問題 - 文学

水平の人 栗須七郎先生と私（鄭承博著，みずのわ出版刊，2001.3）：2,500円《「在日」の庶民の生活を淡々と描く》

#### 日本の差別問題

アメリジアンスクール 共生の地平を沖縄から（照本祥敬，セイヤーミドリ，与那嶺政江，野入直美編著，蔭書房刊，2001.6）：1,600円

「いのち」の近代史 「民族浄化」の名のもとに迫害されたハンセン病患者（藤野豊著，かもがわ出版刊，2001.5）：7,500円《社会と「社会運動史」の対象からも排除された人々の近現代史》

コリアン・マイノリティ研究 第4号（在日朝鮮人研究会編，新幹社刊，2000.12）：1,200円《許光茂「戦前京都の都市下層社会と朝鮮人の流入 朝鮮人の部落への流入がもつ歴史的意義をめぐって」所収》

在日韓国人の終焉（鄭大均著，文藝春秋刊，2001.4）：660円

差別表現の検証 マスメディアの現場から（西尾秀和著，講談社刊，2001.3）：2,000円

先住民族の「近代史」 植民地主義を超えるために（上村英明著，平凡社刊，2001.4）：2,700円

夢色のまち大阪 外国人とともに暮らす（大阪市，大阪市人権啓発推進協議会刊，2000）

#### 日本史

宇治上神社文書（宇治市歴史資料館刊，2001.3）《収蔵文書調査報告書4》

宇治市歴史資料館年報 平成11年度（宇治市歴史資料館刊，2000.12）

上林三人家文書（宇治市歴史資料館刊，2000.3）《収蔵文書調査報告書3》

近代日本を語る 福沢諭吉と民衆と差別（ひろたまさき著，吉川弘文館刊，2001.8）：1,800円

史學雑誌 第110編第5号 2000年の歴史学界回顧と展望（史学会編，山川出版社刊，2001.5）

太平記の時代 日本の歴史第11巻（新田一郎著，講談社刊，2001.9）：2,200円

中世日本文化史論考（横井清著，平凡社刊，2001.6）：4,000円

蒙古襲来と徳政令 日本の歴史第10巻（筧雅博著，講談社刊，2001.8）：2,200円

頼朝の天下草創 日本の歴史第09巻（山本幸司著，講談社刊，2001.7）：2,200円 《東国武士の自負とフロンティア鎌倉の息吹を描き出す》

#### 社会科学

サイバーアクション 市民運動・社会運動のためのインターネット活用術（井口秀介，井上はるお，小西誠，津村洋著，社会批評社刊，2001.7）：1,800円《「市民・社会運動インターネットイエローページ2001」所収》

東西ノ南北考 いくつもの日本へ（赤坂憲雄著，岩波書店刊，2000.11）：660円《この列島のまさに南北の方位にこそ「ひとつの日本」から逸脱する異相の風景が転がっている》

日・韓・中における社会意識の比較調査（佛教大学総合研究所編刊，2001.7）《佛教大学総合研究所紀要別冊》

#### 工学 - 公害

水俣環境学習の手引き（〔水俣病センター相思社〕刊，2001.3）

## 収集逐次刊行物目次（2001年7月～9月受入）

～各逐次刊行物の目次の中から編集部の判断でピックアップしました～

アイユ 120号（人権教育啓発推進センター刊，2001.7）：200円

ビデオ紹介「新時代へのステップ～同和行政の転換期～」（佐藤文友・角岡伸彦・灘本昌久・石元清英）

明日を拓く 38（東日本部落解放研究所刊，2001.2）：1,000円

特集 同和教育に学ぶ

東京墨田における地域学習から 荒川放水路、皮革、

- と畜の仕事、部落問題学習 雁部桂子 / 子どもたちの葛藤と出会う 秋山二三夫 / 同和教育から学ぶこと 平井明
- 近世政治起源説と身分論に関する覚書3 藤沢靖介
- 明日を拓く 39 / 解放研究 第14号 (東日本部落解放研究所刊, 2001.3) : 2,000円
- 人権と総合学習を考える 若干の問題提起 黒沢惟昭
- 近代社会における部落問題 『異化と同化の間 被差別部落認識の軌跡』を書いて 黒川みどり
- 序章としての労働運動 平野小剣研究1 朝治武
- 近代初頭の警察と差別の構図 川元祥一
- 幕末維新期の人権・差別・地域社会 ~ 「差別 / 交流の同在性」の方向化をめぐる ~ 吉田勉
- 時宗鉦打・小考 研究状況と史料 藤沢靖介
- 跡地発 14 (街づくり推進協議会刊, 2001.7)
- キネマでとった柄杓13 『人間臨終図鑑』(山田風太郎著) 嶋田あがった
- シリーズ十人十色の部落問題7 二項対立でない部落問題 浪崎直子
- IMADR-JC通信 113 (反差別国際運動日本委員会刊, 2001.7) : 500円
- 本の紹介 『先住民族の「近代史」~植民地主義を超えるために』(上村英明著)
- ウイングスきょうと 第45号 (京都市女性協会刊, 2001.8)
- コミックで考えるジェンダー 『しんきらり』(やまだ紫作)
- 図書情報室新刊案内
- 『女たちの言葉』(久保覚選, 生活クラブ生協連合会《本の花束》編) / 『中絶論争とアメリカ社会』(荻野美穂著) / 『マンガ ポップコロン天使』(手丸かのこ/マンガ) / 『ジェンダー・マネジメント 21世紀型男女共創企業に向けて』(佐野陽子編著)
- ウイングスきょうと 第46号 (京都市女性協会刊, 2001.10)
- コミックで考えるジェンダー 『pink』(岡崎京子著)
- 図書情報室新刊案内
- 『なぜ婦人科にかかりにくいのか?』(まつばらけいこ・わたなべゆうこ著) / 『実践するフェミニズム』(牟田和恵著) / 『自立のスタイルブック「豊かさ創世記」45人の物語』(共同通信社経済部編) / 『男女共同参画推進条例のつくり方』(山下泰子・橋本ヒロ子・斉藤誠著)
- 大阪社運協月報 第81号 (大阪社会運動協会刊, 2001.8) 社運協の資料室を利用して マイケル・ギブス
- 大阪の部落史通信 26 (大阪の部落史委員会刊, 2001.6)
- 近世産育儀礼と取上婆の位相 「川屋婆」のこと 山中浩之
- 米騒動と部落1 里上龍平
- 岡山部落解放研究所報 第219号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.5) : 100円
- ケガレと人間の存在 部落差別を克服する新しい認識 川元祥一
- 岡山部落解放研究所報 第221号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.7) : 100円
- 「塵袋」の「エタ」(「穢多」)の初出 荒木弘
- 天津における娼妓制度と日本軍「慰安婦」上 佐藤佳子
- 岡山部落解放研究所報 第222号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.8) : 100円
- 天津における娼妓制度と日本軍「慰安婦」下 佐藤佳子
- 岡山部落解放研究所報 第223号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.9) : 100円
- 特集 反差別の視点から「新しい歴史教科書をつくる会」の「歴史」・「公民」教科書を読む
- 解放教育 404号 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.8) : 690円
- 特集 自立と出会いを愉しむ 余暇に生きる子どもたち
- 大震災後の子どもたち2 兵庫県教職員組合
- 調査に見る 素顔のいまどき高校生2 未来を担う若者たちよ 鍋島祥郎
- これからの在日コリアン 金泰泳
- 解放教育 405号 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.9) : 690円
- 特集 平和と共生の教育をつくる 新しい平和学習の展開
- 大震災後の子どもたち3 兵庫県教職員組合
- 図書紹介 『はい、子どもの人権オンブズパーソンです』(住友剛著) 上杉孝實
- 調査に見る 素顔のいまどき高校生3 男子は「人間」たれ、女子は「おんな」たれ 鍋島祥郎
- 解放教育 406号 (解放教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.10) : 690円
- 特集 表現世界を拓く 指導のし方・しかけ方
- 調査に見る 素顔のいまどき高校生4 男子には期待を、女子には幸せを 鍋島祥郎
- 月刊解放の道 211号 (全国部落解放運動連合会刊, 2001.8) : 350円
- 住宅施策の一般化と部落問題解決 改良住宅の譲渡と公営住宅の一般化の今日的意義 川辺勉
- 同和公営住宅の展望 NPO神戸まちづくり同和公営住宅部会

月刊解放の道 212号(全国部落解放運動連合会刊, 2001.9): 350円

三重県の同和行政終結へ 「解同」との癒着を断ち, 教育行政の見直しが焦点の課題 久松倫生

かわとはきもの 116(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2001.6)

靴の歴史散歩61 稲川實

季節よめぐれ 第164号(京都解放教育研究会刊, 2001.9)

カミングアウトの軌跡とこれから 高取昌二

私自身の「部落史像」を見直す 差別解消の主体者を育てるために 藤田孝志

季節よめぐれ 第165号(京都解放教育研究会刊, 2001.10)

高校教育改革と総合学習の展開 糺秀章

自らの「生き方」を問う部落史学習を求めて 差別解消の主体者を育てるために 藤田孝志

季節よめぐれ 第166号(京都解放教育研究会刊, 2001.11)

部落史が私たちに問いかけるもの 新たな部落史の見方、考え方 上野市部落史研究所第12回公開講座 外川正明  
京都市政史編さん通信 第6号(京都市市政史編さん委員会刊, 2001.6)

市村光恵市長小論2 白木正俊

京都市政史編さん通信 第7号(京都市市政史編さん委員会刊, 2001.9)

京都市長の選考過程についての一考察 西郷菊次郎市長選出の背景 秋元せき

市村光恵市長小論3 白木正俊

グローブ 26(世界人権問題研究センター刊, 2001.7)

朝鮮通信使2 松雲大師惟政と日朝復交 仲尾宏

藝能史研究 154(藝能史研究會刊, 2001.7): 1,600円

資料紹介 華蔵寺蔵「職人歌合絵巻」 岩崎佳枝

研究動向 『シリーズ近世の身分的周縁2 芸能文化の世界』(横田冬彦編) 村上紀夫

研究所通信 275(部落解放・人権研究所刊, 2001.7): 100円

提言 二者択一ではないんだ 「開かれた学校づくり」と「安全管理」 岸裕司

読んでみたい議論してみたい文献

『差別表現の検証 マスメディアの現場から』(西尾秀和著) / 『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)

研究所通信 276(部落解放・人権研究所刊, 2001.8): 100円

読んでみたい議論してみたい文献 『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)

研究所通信 277(部落解放・人権研究所刊, 2001.9): 100円

読んでみたい議論してみたい文献

『水平の人 栗栖七郎先生と私』(鄭承博著) / 『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)

国立婦人教育会館研究紀要 第4号(国立婦人教育会館刊, 2000.11)

テーマ 女性と人権

女性と人権 「人権の世紀」を拓く課題 辻村みよ子 / 女性の人権としてのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 柘植あづみ / 男性にとってのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 産ませる性の義務と権利 沼崎一郎 / 「家族」のなかの人権 高齢者介護問題を中心として 春日キスヨ / 女性の人権と教育 女性問題学習における主体形成と自己表現 木村涼子

「人権」を論ずることと「女性の人権」を論ずることの間隙 講義「人権」をめぐる考察 根岸泰子  
書評

『女性と政治』(御巫由美子著) 山口みつ子 / 『私という旅 ジェンダーとレイシズムを超えて』(リサ・ゴウ、鄭暎恵著) 金永子 / 『アメリカの女性大学: 危機の構造』(坂本辰朗著) ホーン川嶋瑤子

子ども情報研究センター研究紀要 第18号(子ども情報研究センター刊, 2001.8): 800円

最近の教育改革の動向と子どもの権利擁護活動のこれから 住友剛

子どもの権利を代弁する児童福祉のあり方 カナダ・オンタリオ州の子どもの弁護士事務所 Office of Children's Lawyerから学ぶ 大和田叙奈

「折りあい」の視点からみた青少年の問題行動 秋山邦久  
子育てのための子どもとおとなの関係性を考える 黒川衣代

こべる 101号(こべる刊行会刊, 2001.8): 300円

差別をめぐる議論の風景 野町均

こべる 102号(こべる刊行会刊, 2001.9): 300円

行政闘争とは何であったか 部落解放運動の責任論 柚岡正禎

『同和はこわい考』をどう読むか 松井安彦

わたしたちは語りうる物語をもっているか 熊谷亨

こべる 103号(こべる刊行会刊, 2001.10): 300円

部落民としてのアイデンティティー 山城弘敬

- 「部落差別の結果」について 住田一郎  
 ごんずい 65 (水俣病センター相思社刊, 2001.7) : 315円  
 特集 水俣病関西訴訟の提起したもの  
 差別とたたかう文化 第22号 (「差別とたたかう文化」刊行会刊, 2001.9) : 400円  
 座談会 「つくる会」教科書を批判する  
 インタビュー 田中水絵さんに聞く 奇妙な時間が流れる島 サハリン 溝上瑛  
 21世紀を迎えて わが足跡3 土方鐵  
 狭山差別裁判 332号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.8) : 300円  
 BOOK 『死の影の谷間から』 (ムミア・アブ=ジャマール著)  
 VIDEO 「無実の叫び2」 (部落解放同盟中央本部・中央狭山闘争本部製作)  
 狭山差別裁判 333号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.9) : 300円  
 特集 司法改革を考える  
 人権軽視の「司法改革」を許さない 藤田一良  
 イギリスの司法改革・刑事事件再審委員会 福島至  
 BOOK 『目撃証言』 (エリザベス・ロフトス, キャサリン・ケッチャム著)  
 月刊滋賀の部落 323号 (滋賀県同和問題研究所刊, 2001.7) : 400円  
 書評 『近江国愛知郡川原村枝郷皮田村関連文書』 (滋賀県同和問題研究所編) 満田良順  
 月刊滋賀の部落 324号 (滋賀県同和問題研究所刊, 2001.8) : 400円  
 書評 『近江国愛知郡川原村枝郷皮田村関連文書』 (滋賀県同和問題研究所編) 水谷孝信  
 月刊滋賀の部落 325号 (滋賀県同和問題研究所刊, 2001.9) : 400円  
 史料紹介 大正初期の部落改善運動 名古屋新聞より 松浦国弘  
 史料センター事業ニュース 第7号 (奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2001.3)  
 研究あれこれ 北山非人・横行・細工 登場する被差別民 奥本武裕  
 人権教育 第16号 (人権教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.8) : 770円  
 特集 子どもと若者の参加・参画が社会を変える  
 書評  
 『アメラジアンスクール』 (照本祥敬編) / 『知っていますか? 子どもの性的虐待一問一答』 (田上時子・エクパットジャパン関西編) / 『はい、子どもの人権オンブズパーソンです』 (住友剛著) / 『敗北を抱きしめて 第二次大戦後の日本人 (上下)』 (ジョン・ダワー著)  
 人権21 調査と研究 153 (岡山部落問題研究所刊, 2001.8) : 650円  
 人権教育の日本的性格と課題 3 人権教育の国際的動向と課題 2 生田周二  
 人権ふくおか 創刊号 (福岡県部落解放・人権研究所刊, 2001.3) : 700円  
 多様化する世界の人権概念 人権とはなにか 横田耕一部 歴史の授業に欠かせない基礎的な認識とは何か 石瀧豊美  
 同和教育の可能性 川向秀武  
 学力保障を考える 福永謙二  
 啓発の論理を考える 大谷清人  
 人権問題研究 1号 (大阪市立大学人権問題研究会刊, 2001.3) : 1,500円  
 敗戦後日本における街娼という問題 古久保さくら  
 バングラデシュ都市部のセックス・ワーカー: チッタゴン市における事例 Iftekhar U. Chowdhury  
 大阪市立大学における「女性学」の歴史 岩堂美智子  
 ディアスポラとしての中上健次: 虚構の「路地」と現実の被差別部落 野口道彦  
 和歌山県新宮市における同和地区の変容と中上健次 若松司・水内俊雄  
 トリプル・エクスプロイテーション: 今日における階層性と教育不平等 鍋島祥郎  
 同和地区児童生徒の学力における課題解決に向けて 畑利忠  
 企業行動のガイドラインについて: バイエル株式会社の事例 岡本人志  
 自己言及と差別 高度成長期における沖縄人の本土移動体験 岸政彦  
 マレーシアにおける人権とエスニック問題: マハティール首相の人権観を中心に 岸脇誠  
 『にんげん』から学んで4 梅原達也  
 実践的立場から見た戦後教育の総括4: 「荒れる」子どもたちの実態2 木下健二  
 てくてく キリストと歩こう 128号 (カトリック正義と平和京都協議会刊, 2001.7)  
 京都の「同和推進校」に「君が代」が流れた日 希沙の卒業式日記 蒔田直子  
 同和教育 472号 (全国同和教育研究協議会編, 2001.7) : 150円

人権文化を拓く53 「同じ地球人としての誇りを持つとう」  
吉田ルイ子

同和教育 473号(全国同和教育研究協議会編, 2001.8) :  
150円

人権のまちをゆく5 円通寺人形芝居

人権文化を拓く54 東北から、差別を考える 赤坂憲雄

同和教育 474号(全国同和教育研究協議会編, 2001.9) :  
150円

人権文化を拓く55 「構造改革」と同和問題 秋定嘉和

「同和」推進フォーラム 33(真宗大谷派同和推進本  
部刊, 2001.6)

私の一冊 『魂の島・大島 「らい予防法」廃止後の今』  
(太田昭生・作) 河合俊治

『同和はこわい考』通信 149(藤田敬一刊, 2001.6.2  
9)

採録

住田一郎「部落差別 自己責任担い対等な対話を」  
(朝日新聞 01/6/2) / 師岡佑行「弔辞」

再録 藤田敬一「同和問題の解決と人権感覚」(岐阜県人  
権同和对策課・岐阜県人権啓発センター『人権だより』

01/5)

長田弘さんを読む1 子どもの本の魅惑 白木裕子

『同和はこわい考』通信 150(藤田敬一刊, 2001.7.2  
6)

長田弘さんを読む2

「深呼吸・全体を見る目・希望」という秘密を見つけ  
た 坂倉加代子 / 長田弘『深呼吸の必要』を読む 野町  
均

『同和はこわい考』通信 151(藤田敬一刊, 2001.8.2  
2)

採録 「わたしはどこに立っているのか? 糾弾により問  
われた僧侶の『立場』」(財団法人同和教育振興会発行  
『同和教育論究』18, 97/3)

ねっとわーく京都 152号(ねっとわーく京都刊行委員  
会刊, 2001.9) : 500円

特集 京都にみるもう一つの歴史教科書

ねっとわーく京都 153号(ねっとわーく京都刊行委員  
会刊, 2001.10) : 500円

特集 ホワッツ?ザ・NPO 京都のNPOの今と行政との関係を  
探る

はらっぱ 209(子ども情報研究センター刊, 2001.7) :  
700円

私の本棚

『英国の国語教育 理念と実際』(山本麻子著) /

『子どもと出会うあなたへ』(黒川衣代、井上寿美、

尾崎公子著)

はらっぱ 210(子ども情報研究センター刊, 2001.8) :  
700円

私の本棚

『ぼくらはみんな生きている』(坪倉優介著) / 『大  
学で何を学ぶか』(加藤諦三著)

はらっぱ 211(子ども情報研究センター刊, 2001.9) :  
700円

私の本棚

『こころが元気になる31のヒント+』(小森眞奈美著)  
/ 『わたしは・ぼくはたいせつないのち』(手塚千砂  
子著・中田真理子絵)

ヒューマンライツ 160(部落解放・人権研究所刊, 200  
1.7) : 525円

国際人権法研究の沃野から 私の書棚「中坊公平・私の事  
件簿」 藤本晃嗣

今月のおすすめ

『私の障害、私の個性。』(ウエンディ・ローソン著)  
/ 『ジェンダー・マネージメント 21世紀型男女共創企  
業に向けて』(佐野陽子・嶋根政充・志野澄人編著)  
/ 『日録メディア・メモ 296・1~97・12』(中興宏編)  
/ 『学びあう 女と男の日本史』(歴史教育者協議会編)  
/ 『湊川を、歩く』(登尾明彦著)

図書紹介 『よみがえる部落史』(上杉聰著) 豊かなイ  
メージで描かれた部落史像の展開 雲林院治夫

玲子さんの映画批評 「J S A」(パク・チャヌク監督)  
川西玲子

ヒューマンライツ 161(部落解放・人権研究所刊, 200  
1.8) : 525円

今月のおすすめ

『女性の働き方ガイドブック 変わる社会・変わる女性』  
(大石友子著) / 『ドメスティック・バイオレンスに  
対する取組みと課題』(アジア・太平洋人権情報セン  
ター編) / 『差別表現の検証 マスメディアの現場から』  
(西尾秀和著) / 『歴史教科書 何が問題か 徹底検証  
Q & A』(小森陽一・坂本義和・安丸良夫編) / 『サ  
バルタンと歴史』(崎山政毅著)

玲子さんの映画批評 「A.I.」(スティーブン・スピルバ  
ーグ監督) 成熟社会を象徴する作品 川西玲子

ヒューマンライツ 162(部落解放・人権研究所刊, 200  
1.9) : 525円

連載 走りながら考える 6 電子空間上の人権救済・相談  
機関の創設を 北口末広

現代史の目 1 外島保養院の記念碑 小山仁示

今月のおすすめ

『この発想が会社を変える 新しい企業価値の創造』  
 (経団連社会貢献担当者懇談会編) / 『水平の人 栗栖  
 七郎先生と私』(鄭承博著) / 『ブランドなんかいらな  
 い 搾取で巨大化する大企業の非情』(ナオミ・クラ  
 イン著) / 『子どもという価値 少子化時代の女性の心理』  
 (柏木恵子著) / 『サバイバー・フェミニズム』(高  
 橋りりす著)

玲子さんの映画批評 「彼女を見ればわかること」(ロド  
 リゴ・ガルシア監督) 川西玲子

図書紹介 『たたかう女性学へ 山川菊栄賞の歩み 1981~  
 2000』(山川菊栄記念会編) 三原容子

ひょうご部落解放 100号(兵庫部落解放研究所刊, 200  
 1.7): 700円

「100号」によせて 領家穰

総目次

ひょうご部落解放 101号(兵庫部落解放研究所刊, 200  
 1.9): 700円

特集 精神障害と差別

「JR尼崎駅等連続差別落書き事件」を通してみえてきた  
 もの 細見義博

部落史の問題点 友井公一

書評

『友だちがでにくい子どもたち』(石崎朝世編著)  
 / 『私の障害、私の個性。』(ウェンディ・ローソン  
 著)

映画評 「ルムパの叫び」(ラウル・ベック監督)

部落 677号(部落問題研究所刊, 2001.7): 525円

特集 新たな地域住民運動をめざして

初代理事長奈良本辰也先生を送る 東上高志

文芸の散歩道 西鶴作品に著された近世賤民たち 『西鶴  
 置土産』より 小原亨

本棚 『戦後民主主義と人権の現在 グローバル化のなか  
 で』(碓井敏正著) 井手幸喜

部落 678号 特別号(部落問題研究所刊, 2001.7): 84  
 0円

特集 子どもと人権

部落 679号(部落問題研究所刊, 2001.8): 525円

特集 報道と人権

同和行政終結にむけて2 特別対策の継続を許さずいっさ  
 いの同和行政の終結を 京都市 井坂博文

文芸の散歩道 市長になった男の書いた部落問題小説2

「水平」……古手川忠助 秦重雄

部落 680号(部落問題研究所刊, 2001.9): 525円

特集 「つくる会」教科書批判と不採択運動

明治期の部落学校 その存在を被差別の観点からだけと

らえてよいのか 成澤榮壽

大分県同和行政・同和教育終結に向け共同の取り組みす  
 すむ 加藤純子

文芸の散歩道 ハンセン病問題で有名にしたいこと 秦重  
 雄

部落解放 489号(解放出版社刊, 2001.7): 1,050円  
 第27回部落解放文学賞

部落解放 490号(解放出版社刊, 2001.8): 630円

特集 「人権救済答申」をどう読むか

映像フリースペース 「今日から始まる」(ベルトラン・  
 タヴェルニエ監督) 苦しい現実を支えるもの 白井佳夫  
 東京音楽通信 「イフンケ」(安東ウメ子) アイヌ音楽  
 の名盤 藤田正

やっぱり今この本を15 「天のシーソー」(安東みきえ作)

山下明生

精神病院に人権の光を 精神病院の療養環境や人権上の問  
 題点に関する実情調査を実施して 山本深雪

インタビュー 柳川流三味線の芸とそれを支える職人の技  
 津田道子

中・近世に生きた職人たち2 「職人」の虚像と実像

『三十二番職人歌合』から 岩崎佳枝

部落解放 491号(解放出版社刊, 2001.9): 630円

特集 日本のマイノリティ女性と差別

映像フリースペース 「千と千尋の神隠し」(宮崎駿監督)

白井佳夫

東京音楽通信 抗議と反逆の歌・レゲエ ポブ・マーリー  
 没後20年 藤田正

やっぱり今この本を 16 『金色の象』(岩瀬成子作) 今  
 江祥智

本の紹介

『部落史に学ぶ 新たな見方・考え方にたった学習の展  
 開』(外川正明著) / 『顔とトラウマ 医療・看護・教  
 育における実践活動』(藤井輝明編著) / 『先住民族  
 の「近代史」 植民地主義を超えるために』(上村英明  
 著) / 『学問と「世間」』(阿部謹也著)

精神障害者の犯罪をどのように考えるべきか 安心してか  
 かれる精神医療の確立こそ急務 里見和夫

犯罪報道のあり方 池田小学校事件をめぐる 池原毅和  
 巨大彫刻に沖縄の未来を託す 100メートルレリーフは何  
 をめざすか 金城実

奈良本辰也先生と部落問題 師岡佑行

絵図を部落問題の文脈でとらえなおす 大阪人権博物館特  
 別展「絵図に描かれた被差別民」 吉村智博

部落解放 492号(解放出版社刊, 2001.10): 630円

特集 「法」期限後の「同和」行政

人権行政の原点・柱としての「同和」行政 友永健三 / 基盤整備をふまえ本格的な解決へ「特別措置法」時代の同和行政を総括する 菱山謙二 / 今後の「同和」行政の確立のために 松岡徹 / 大阪府の2000年実態調査から 部落解放同盟大阪府連合会

映像フリースペース「ウォーターボーイズ」(矢口史靖監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を17 『ポーソーとんがりネズミ』(渡辺わらん作・廣川沙映子絵)

本の紹介

『部落の歴史像 東日本から起源と社会的性格を探る』(藤沢靖介著) / 『ぼくの「星の王子さま」へ 医療裁判10年の記録』(勝村久司著) / 『水平の人 栗須七郎先生と私』(鄭承博著) / 『ジブシー シンティ・ロマの抑圧の軌跡』(小川悟著)

ひとりの益荒男、その全貌 土方鐵『小説石田波郷』を読む 小沢信男

住民参加で多様な住宅づくり 大阪・日之出定期借地権付きコーポラティブ住宅の取り組み 部落解放同盟大阪府連合会日之出支部

ホルモン奉行外伝 1 油かす篇(上) 角岡伸彦

社会風刺と自由空間 門付芸「ちょんがれ」の歴史と現代 11 川元祥一

部落解放運動情報 60号(部落解放運動・情報編集委員会刊, 2001.7) : 300円

こんな本がでています

『解放運動夜話 わが回想の記』(小森龍邦著) / 『佐賀バスジャック事件の警告 孤立する家族、壊れた17歳』(町澤静夫著)

部落解放運動情報 61号(部落解放運動・情報編集委員会刊, 2001.9) : 300円

こんな本がでています

『光あるうちに』(横井清著) / 『出発点1979~1996』(宮崎駿著)

部落解放研究 第141号(部落解放・人権研究所刊, 2001.8) : 1,000円

長州藩部落寺院史の基礎的考察 布引敏雄

東七条におけるバラック対策と新幹線敷設 前川修

マイノリティ・ジェンダー統計は可能か 伊藤セツ

部落高校生の進路に関する実証的研究(3)~部落の文化と子どもたちの進路~ 鍋島祥郎

「社会責任投資(SRI)ファンド」は社会の価値観を映す鏡 斎藤慎

書評

『近代日本と公衆衛生』(小林丈広著) 成田龍一 /

『部落問題のパラダイム転換』(野口道彦著) ひろたまさき / 『保育実態調査本報告書』(大阪府・大阪市・堺市編) 高田一宏

部落解放闘争 32(部落解放理論センター刊, 2001.8) : 1,200円

特集 差別糾弾闘争の実践的とりくみ

インタビュー 京都大学部落解放研究会に聞く 京都大学差別事件糾弾闘争

インターネット上での差別糾弾闘争の総括 巨大掲示板ホームページ 2ちゃんねる 差別糾弾闘争 久保岳也 部落解放ひろしま 第53号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2001.7) : 1,000円

特集 教科書攻撃に見る危ない未来

多くの日本人にとって死角となっている人種主義を糾す~『週刊金曜日』掲載の外国人差別マンガに対する抗議~ 金子マーティン

書評 『ヒロシマを持ちかえた人々 「韓国の広島」はなぜ生まれたのか』(市場淳子著)

部落解放ひろしま 第54号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2001.9) : 1,000円

特集 辰野教育行政を検証する

日本国の戦後処理と日本人の戦争観~「記憶の暗殺者」集団批判~ 海外進出を目論む厚顔無恥な南京大虐殺「虚構派」 金子マーティン

部落解放史ふくおか 第102号(福岡部落史研究会刊, 2001.6) : 1,050円

「踏まれたものの痛み」考 加藤陽一

特集 人権資料・展示全国ネットワークの活動

一九二六年沖野々事件考 資料紹介をかねて 廣畑研二

書評 『「部落史」論争を読み解く 戦後思想の流れの中で』(沖浦和光著) 遠藤和夫

月刊部落問題 295(兵庫人権問題研究所刊, 2001.7) : 350円

特集 研究活動の新たな展望 「兵庫人権問題研究所」に改称

近代の社会的差別56 友愛会の歴史的意義と社会事業10 布川弘

中山修一「平時の弱者、戦時の勇者」(1938年)によせて 後藤正人

月刊部落問題 296(兵庫人権問題研究所刊, 2001.8) : 350円

特集 人権救済制度の在り方 人権擁護推進審議会「答申」

月刊部落問題 297(兵庫人権問題研究所刊, 2001.9) : 350円

長野市の「同和地区生活実態調査」があきらかにしたも

の 佐藤次二

住井すゑさんの「天皇制と部落」について 栗原省  
近代の社会的差別57 友愛会の歴史的意義と社会事業11  
布川弘

部落問題研究 157 (部落問題研究所刊, 2001.8) : 1, 11円

人権教育研究指定校における人権教育 1997~1998年度  
の場合 梅田修

書評 『身分論から歴史学を考える』(塚田孝著) 井ヶ  
田良治

部落問題文芸作品発掘 その1

『部落挿話』(生江健次著) / 作品解題 秦重雄

史料紹介 奈良県北葛城郡役所 『明治38年特種部落状況視  
察書類』(下) 鈴木良

三重県同和教育センターReport 第7号 (三重県教育  
委員会事務局同和教育課, 三重県同和教育センター刊, 2  
001.4)

1999年度進路保障に関する調査研究 三重県内の同和地区  
出身大学生の聞き取りからみえてくるもの

三重県同和教育センターReport 第8号 (三重県教育  
委員会事務局同和教育課, 三重県同和教育センター刊, 2  
001.8)

幼稚園における同和教育・人権教育に関する実態調査研

究

三重県同和教育センターReport 第9号 (三重県教育  
委員会事務局同和教育課, 三重県同和教育センター刊, 2  
001.8)

三重県内の高等学校における同和教育・人権教育 推進  
体制・推進状況に関する調査研究

民権協ニュース 126 (在日韓国民主人権協議会刊, 200  
1.5) : 300円

書籍紹介 『韓国人権運動の証言』(徐俊植著)

民権協ニュース 128 (在日韓国民主人権協議会刊, 200  
1.7) : 300円

書籍紹介 『在日外国人の人口動態 韓国・朝鮮 2001年版』  
(李節子著)

Rights ライツ 26 (鳥取市人権情報センター刊, 2001.  
7)

今月のいちおし! 『口で歩く』(丘修三作) 清水祐加

Rights ライツ 27 (鳥取市人権情報センター刊, 2001.  
8)

今月のいちおし! 『女を殴る男たち』(梶山寿子著)

Rights ライツ 28 (鳥取県人権情報センター刊, 2001.  
9)

今月のいちおし! 『自分を見つめ解き放つ』(部落解放・  
人権研究所編)

## 新聞書評欄等 (2001年7月~9月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 第2026号 (解放新聞社刊, 2001.7.9) : 80円

今週の1冊 『歴史 はいかに語られるか 1930年代「国  
民の物語」批判』(成田龍一著)

解放新聞 第2027号 (解放新聞社刊, 2001.7.16) : 80  
円

今週の1冊 『私を語ることばに出会って 今を生きる女性  
たちの物語』(フェミニストカウンセリング堺編)

解放新聞 第2028号 (解放新聞社刊, 2001.7.23) : 80  
円

今週の1冊 『「日本」国家と女』(井桁碧編著)

解放新聞 第2029号 (解放新聞社刊, 2001.7.30) : 80  
円

今週の1冊 『民衆を彫る 沖縄・100メートルレリーフに  
挑む』(金城実著)

解放新聞 第2030号 (解放新聞社刊, 2001.8.6) : 120  
円

今週の1冊 『プロブレムQ & A 個人情報を守るために』

(佐藤文明著)

解放新聞 第2031号 (解放新聞社刊, 2001.8.13) : 80  
円

今週の1冊 『あたらしい憲法のはなし』(文部省著)

解放新聞 第2032号 (解放新聞社刊, 2001.8.20) : 80  
円

中北龍太郎 ブックガイド

『靖国神社』(大江志乃夫著) / 『歴史教科書をどう  
つくるか』(永原慶二著) / 『知っていますか? 君が

代・日の丸』(上杉聰著) / 『加害と救済 南京大虐  
殺と東史郎裁判』(東史郎さんの南京裁判を支える会

編) / 『戦後責任論』(高橋哲哉著) / 『憲法を活か  
す 市民の人権を守る裁判から』(中北龍太郎著)

解放新聞 第2033号 (解放新聞社刊, 2001.8.27) : 80  
円

今週の1冊 『無文字社会の歴史 西アフリカ・モン族の事  
例を中心に』(川田順造著)

解放新聞 第2035号（解放新聞社刊，2001.9.10）：80円  
 今週の1冊 『査問』（川上徹著）  
 解放新聞 第2036号（解放新聞社刊，2001.9.17）：80円  
 今週の1冊 『太鼓 つくって知ろう！かわ・皮・革』（三宅都子文・中川洋典絵）  
 解放新聞 第2037号（解放新聞社刊，2001.9.24）：80円  
 今週の1冊 『統一コリアのチャンピオン ボクサー徳山昌守の闘い』（高賛侑著）  
 山口公博が読む今月の本  
 『赤目四十八瀧心中未遂』（車谷長吉著）／『富国徳論』（川勝平太著）／『「自分の木」の下で』（大江健三郎著）  
 解放新聞 第2038号（解放新聞社刊，2001.10.1）：120円  
 VIDEO 「コーカサスの虜」（セルゲイ・ボドロフ監督）  
 今週の1冊 『森の棘・花の記憶』（にしばねよしこ脚色・南一平作画）

解放新聞改進黨 第283号（部落解放同盟改進黨支部刊，2001.6）  
 私の本棚141 『権利のための闘争』（イエーリング著）松田敏明  
 解放新聞東京版 第528号（解放新聞社東京支局刊，2001.7.15）：90円  
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評157 「忘れられぬ人々」（篠山誠監督）白井佳夫  
 解放新聞東京版 第530号（解放新聞社東京支局刊，2001.8.15）：90円  
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評158 「釣りバカ日誌12」（本木克英監督）  
 解放新聞東京版 第532号（2001.9.15）：90円  
 この一冊 『部落の歴史像』（藤沢靖介著）松浦利貞  
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評159 「コレリ大尉のマンダリン」（ジョン・マッデン監督）  
 なら解放新聞 第677号（奈良県部落解放同盟支部連合会刊，2001.7.25）：140円  
 期待と直言・友人として2 藤田敬一  
 摂食障害ってなんやろ。3 すー

事務局より

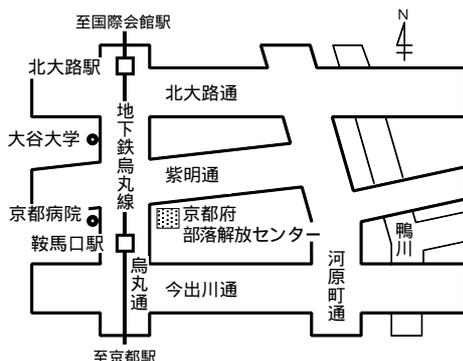
今号より、「『京都の部落史』史料を読む」を連載します。『京都の部落史』全10巻（京都部落史研究所刊，阿吡社発売，1995年完結）の内、第3巻から第9巻は史料編となっており興味深い史料が多数載せられているのですが、読み下しているとはいえ量が多いため全部に詳しく目を通すのは中々大変な作業です。通史編の1・2巻ではこれらの史料を元に記述しているのですが紙数の関係で、重要な史料でも数行でしか触れられていないものもあります。そこで今回、『京都の部落史』史料を活かしていく試みとしてこの連載を企画しました。次号も中島智枝子さんに書いていただく予定です。どうぞ、ご期待ください。

尚、『京都の部落史』は刷部数の関係で全10巻セット組があと僅かになりました。購入予定の方、お急ぎください。

ホームページで所蔵図書ならびに論文の検索ができるようになりました。「図書情報」の欄です。紙面デザイン・紙質を変えましたが如何でしょうか？単色なので少し地味になりました。

Memento 6

発行日 2001年10月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151  
 京都市北区小山下総町5-1  
 京都府部落解放センター 3階  
 TEL/FAX 075-415-1032  
 U R L <http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>  
 開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時  
 （祝日・年末年始は休みます）  
 交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅（京都駅より約10分）下車 北へ徒歩2分